

茨城県医師連盟だより

No. 39

茨城県医師連盟 〒310-0852 水戸市笠原町 489

2023. January

巻頭言



同時改定に向けて医政活動 の更なる活性化を目指そう！

茨城県医師連盟委員長

鈴木 邦彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年6月より2期目に就任させていただきました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、昨年末から第8波が始まっておりますが、この冬には季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されることから、824の診療・検査医療機関に加えて、新たに99の医療機関に新型コロナ陰性の場合に対応していただけることになりました。第8波におきましても県民の安心・安全を確保できますよう、会員の皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年7月10日の第26回参議院議員通常選挙において、日本医師連盟の組織内候補である自見はなこ先生が、全国で213,369票と、自民党の社会保障関係候補の中で1位、全体でも実質6位で当選させていただくことができました。本県でも4,264票と、社会保障関係候補中3位ですが、6年前より1,155票も多く獲得することができました。これは全都道府県医師連盟の中で、伸び率では137%と8位のすばらしい成績です。また、直近4回の本県における日本医師会組織内候補の得票数と比べても、6年前の自見先生だけでなく、羽生田たかし先生の3年前と比べて2,035票、9年前と比べて2,175票多く獲得しており、今回は9年前と比較すると2倍の得票数になります。皆様のご支援に対し

まして、心より御礼申し上げます。

さらに、昨年12月11日の茨城県議会議員一般選挙においては、10月21日の臨時委員会において、自民党候補48名（公認46名、推薦2名）への推薦・支援を決定させていただき、10月31日に推薦状・為書きを交付させていただきました。残念ながら10名の現職が落選の憂き目にあいましたが、当選した保守系新人の会派入りも見込まれ、選挙前の勢力は維持できる見通しとのことです。皆様のご支援を誠にありがとうございました。

その間、9月12日には新たに自民党茨城県支部連合会幹部との懇談会を、11月25日には3回目となる自民党茨城県選出国会議員との意見交換会を開催させていただきました。安定した医療活動を継続するためには、政権与党である自民党との良好な関係は必要不可欠です。今後とも自民党の本県選出国会議員のおよび県議会議員の先生方との連携・協力体制を強化してまいります。

なお、昨年11月8日現在、自民党茨城県医療会支部の党員は211名と、前年同月比で19名増加いたしました。引き続き党員増加による医療会支部の充実に努めてまいります。

会員の皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



論壇

社会経済活動を
取り戻す一年に

茨城県知事

大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。鈴木委員長をはじめ、茨城県医師連盟の先生方におかれましては、日頃から地域医療を献身的に支えていただき、心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症との長きにわたる闘いは、間もなく3年を迎えようとしております。昨年は年明けから、高い感染力を持つオミクロン株による第6波が到来し、それまでとは比較にならない規模の感染拡大に見舞われ、その後も、夏場の第7波、冬場の第8波と続き、1年間で延べ40万人以上の県民が感染いたしました。

一方で、現在、新型コロナウイルス感染症の重症化率や致死率が大きく低下しており、これは、ウイルスの変異に加え、医療従事者の皆様による、昼夜を問わない懸命なご尽力あつてのものであると、深く感謝申し上げます。

例えば、重症化予防に有効である新型コロナワクチンにつきましては、医療従事者の皆様にご協力いただき、重症化リスクの高い方が多い福祉施設に対し、迅速かつ円滑に接種を進めるとともに、県医師会には市町村接種会場への医師派遣にご配慮いただくことにより、本県の接種状況は全国でもトップクラスとなっております。

また、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れにつきましては、当初28医療機関の151床で始まりましたが、現在は53医療機関の949床にまで拡充できており、膨大な感染者を数えながらも、真に入院が必要であるにもかかわらず、入院先が見付からずに自宅で亡くなるという最悪の事態は回避できております。

第7波でひっ迫が課題となりました発熱外来につきましても同様に、県内824医療機関にご協力いただき、対応能力を大きく向上させることができました。

さらに、感染者の増加に伴い、罹患後症状（いわゆる後遺症）に悩む方が増加する可能性に備え、本県では早くから、罹患後症状外来実施医療機関を設置・充実させ、発熱外来を受診した際に配布されるチラシにも当該医療機関の問合せ先などを記載し、県民の利便性向上に取り組んでおります。

他方で、現在の状況を踏まえますと、今や、新型コロナウイルス感染症は過度に恐れる必要のない疾患になってきております。

国におきましても、「2類相当」の分類見直しに向けた議論を進めているところであり、学校給食における黙食を見直すなど、少しずつではありますが、日本も諸外国と同様に、新型コロナウイルス感染症との共生に向けて動き始めました。

県といたしましては、変異株を含む感染状況のモニタリングはしっかりと継続しつつ、今後は、率先して社会経済活動を取り戻していきたいと考えております。

これに伴い、この感染症を通常の医療の中でどう診療していくかが課題になると思いますので、皆様方におかれましても、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、茨城県医師連盟の益々のご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈りいたします、挨拶いたします。





新しい年を迎えて

自由民主党茨城県支部連合会会長
自由民主党幹事長代行
衆議院議員

梶 山 弘 志

新年あけましておめでとうございます。

昨年7月の第26回参議院議員選挙におきましては、茨城県医師連盟の皆様方の多大なるご支援を賜り、わが党公認候補の自見はなこさん、加藤明良さんが当選を果たすことができました。また、12月には茨城県議会議員選挙が行われ、自由民主党が過半数の議席を獲得させて頂きました。皆様方のご協力に改めて感謝申し上げますとともに、本年も地元に関与した確かな未来を創るために、全力で職務に励んで参ります。

さて、2020年1月、国内において初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから3年が経過致しました。この間、我々は医療関係者の皆様方の絶大なるご支援、ご協力を賜りながら、そして専門家の皆様方のご意見も伺いながら、国民の命と健康を守ること、そして社会経済活動を止めないこと、この両立に全精力を傾けてまいりました。

その一方、「第8波」への懸念も高まる中で、この冬はインフルエンザとの同時流行の可能性も指摘されており、引き続き感染症対策に万全を期すとともに、新たな感染拡大を見据えた態勢の強化にもしっかりと取り組むべきと考えております。

また、足元においては、ロシアによるウクライナ侵略と円安によるエネルギー・食料価格の高騰、世界の景気後退懸念が日本経済の大きなリスク要因となっております。医療分野においても、円安による物価上昇や資源高騰が病院経営を圧迫する中で、命を支える医療機器の節電は容易ではなく、また、高騰を理由に、医薬品や医療資材を安価な物に切り替える、という即時の代替も困難

であり、皆様には様々な苦渋の中でご努力を重ねて頂いているものと承知をしております。

地域医療を支える皆様方の安心無くして、地域の命を守り抜くことはできません。

これまでも現下の物価高に対して、特に急激な値上がりリスクのある電力料金について、家計、企業の電力料金負担の増加を直接的に緩和する、前例のない思い切った対策を講じて参りましたが、引き続き医師連盟の皆様方のご意見に真摯に耳を傾けながら、より一層、機動的な対応に取り組んで参りたいと思っております。

本年の干支は「兎」でございます。中国の神話伝説「嫦娥奔月」（じょうがほんげつ）には、月の仙女である嫦娥のお供として、不老長寿の霊薬を調合する兎の話が出て参ります。様々な課題を抱える日本社会に特効薬はございませんが、その課題をしっかりと診察し、的確な政策を施すことで迅速な処方、治療に取り組むことが重要であると考えます。本年も新型コロナウイルス感染症の趨勢に油断することなく、常に緊張感をもって環境変化に即応し、安全・安心な医療提供体制を守り抜いていく所存でございます。

皆様と共に幸多き一年を過ごせますよう、引き続きのご支援・ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。





新年のご挨拶

衆議院議員

田 所 嘉 徳

茨城県医師連盟の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。内外ともに不安要素の多いなかですが、今年こそは明るい展望の拓ける年にしたいものです。

我が国で新型コロナウイルスの感染が確認されてから丸3年となり、その間にはまん延防止措置や緊急事態宣言が繰り返されるなど、現在の第8波にまで及ぶ長期の闘いになっています。SARSや2009年の新型インフルエンザなどと比べても長期に亘り、その特性も変異を繰り返す執拗なもので、社会経済活動に多大な影響を及ぼしています。

最初の頃は体温が37.5度以上の日が4日続くことが相談・受診の目安とされて検査も十分にできない状況があり、その後もワクチンが開発されても必要量が確保できずに接種予約が困難となるなど、幾多の難しい局面がありました。まさにセオリーのない感染症の猛威と対峙し、対応力を強化してきた歴史と言えます。

皆様が医療の最前線で、通常業務を抱えながら、職業的使命感から敢然と医療体制を守ったことは、本当に尊いことだと思っています。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大を防止しながら、経済活動も活性化させようという、相反する難しい課題への取組みが求められています。依然としてクラスターの発生や感染拡大の危険性を孕んでおり、発熱外来の拡充をはじめとする、かかりつけ医機能の強化など、医師連盟の皆様の役割が重要になっています。

昨年は、これまでの新型コロナ対応を踏まえた上で、国民の生命・安全に重大な影響を与えるお

それのある感染症の発生・まん延等における保健・医療提供体制を整備することを内容とする感染症法等の改正を行いました。さらに本年は、感染症対応の総合調整を行う内閣感染症危機管理統括庁（仮称）を創設するための法整備を行うこととしております。医師連盟の皆様が気概をもって活躍できるような、基盤整備を推進します。

しかし、昨年来の物価の高騰により医療機関の経営に大きな影響が生じているものと承知しております。国におきましては、種々の物価高騰対策を講じてきているところですが、医療機関の安定的な経営の重要性に鑑み、引き続き必要な支援が適切に行われるよう取り組んでまいります。

電子処方箋、オンライン資格確認をはじめとする医療DXの取組の推進、かかりつけ医機能の在り方など、全世代対応型の持続的な社会保障制度の構築に向けた議論も進められているところです。私も誰もが安心してよりよい医療を受けることができるよう、国政の場において全力を尽くしてまいります。

結びに、茨城県医師連盟の益々のご発展と、先生方の一層のご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





かかりつけ医への期待

衆議院議員

額 賀 福志郎

令和5年の年頭に当たり、茨城県医師会、茨城県医師連盟の皆様には、コロナ禍にもかかわらず新たな希望をもって新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が始まってから丸3年が経ちました。全世界では、この3年で約6億5千万人の方がこの感染症に罹患され、700万人近い方がお亡くなりになられています。日本でも3000万人を超える方が罹患し、6万人以上の生命が失われました。現在も新たな変異株が生まれ、感染の波を繰り返しています。私たちは、基本的な感染予防対策の徹底、ワクチン接種、治療薬の開発とともに、日常生活を取り戻し、経済活動の正常化を図っていかねばなりません。

また、今般の感染爆発によって私たちの社会がいかに感染症に脆弱であるかが明らかとなったわけですが、私たちは何を反省し、今後何をなすべきかについて国民の皆様とともに考え、実行に移していかなければなりません。

まず、足下の感染症対策について私は昨年の医師連盟だより38号で、500床以上の公的病院の病床提供を法定化すべきと提言しましたが、昨年末には保健医療体制の強化策を盛り込んだ改正感染症法が成立し、これにより病床ひっ迫時に大規模な公立、公的病院などにコロナ病床の捻出が義務付けられることになりました。今後は民間病院にどのようにご協力いただくかが課題であると考えています。

このように、コロナ禍で明らかとなった課題に対しては、ひとつひとつ答えを出すなかで国民の

皆様方に安心感を持っていただき、一日も早い経済社会活動の正常化を目指していくことが求められています。

さらに、少子高齢化が進行することで、今後ますます高齢者の増加と生産年齢人口の急減が見込まれます。人口構造の変化に対しては、地域医療構想の実現に向けた取り組みや、医療従事者の働き方改革、医師偏在対策を一体的に推進するなかで総合的な医療提供体制の改革を行っていくことが不可欠です。

このため、医療に関する中長期的な課題の解決のカギは、さまざまな医療的ニーズに的確に対応できる「かかりつけ医」機能の強化であると考えます。「かかりつけ医」は、健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のことを言い、まさに地域医療の中核的な存在であるといえます。

本年の通常国会では医療法を改正し、この「かかりつけ医」を法律に明記させていただく予定となっています。このことによって、「かかりつけ医」の社会的役割が高まり、今後、地域医療から高度で専門的な医療まで一貫した医療提供体制確立のための基盤をどのように整備するのが問われることになります。

さて、2025年には「団塊の世代」がすべて後期高齢者となり、医療費、介護費など社会保障関係費は今後、大きく増大することが予想されています。このような状況のなかで、社会保障制度をどのようにしたら持続可能なものとするができるのか、全国的な議論が必要となきています。

私も、先に述べた「かかりつけ医」の機能強化はじめ医療提供体制の充実強化、地域包括ケアシステム実現のための態勢整備など、あらゆる世代が安心して暮らせる郷土茨城、日本の実現を目指していきたいと考えております。

結びに、茨城県医師会、茨城県医師連盟のますますのご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈りし、新年のご挨拶に代えさせていただきます。



平時の対応からの脱却

衆議院議員

葉 梨 康 弘

茨城県医師連盟の皆様には、令和5年の新春を健やかに迎えられたこととおよろこび申し上げます。

昨年は、私も、皆様にご迷惑をおかけしましたが、その反省の上に立ち、本年は、地域の皆様のお役に立つことができるように、新たに出直して、全身全霊で国政に取り組んで参る所存です。

さて、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の問題は、私たちに、日本という国の脆弱性を突きつけることとなりました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延前は、わが国は、世界的にも誇ることができる医療体制を構築したと思っていたわけですが、ワクチンの開発にせよ、病床の確保にせよ、多くの問題が顕在化することになりました。

これは、何も医療のみでなく、コロナ禍やロシアのウクライナ侵略により、エネルギー安全保障や食料安全保障の点からも、わが国の弱さが明らかになったことはご案内の通りです。

わが国のシステムが、平時の国際情勢化ではワークしたかも知れないけれども、緊急時にはなかなか役に立たないという事実は、本当に深刻な問題だと思います。

これからの私たちには、このような、「社会システムの平和ボケ」状態から脱却し、しなやかなシステムを作っていくことが求められます。

その意味で、今後の診療報酬改定や病床確保の議論、地域包括ケアシステムの構築などの課題を進めるに当たっては、今までとは違った観点からの議論が必要となりますし、その中で、国民皆保

険をいかに維持していくか、政治に課せられた役割は極めて大きなものがあると思います。

私自身、冒頭述べましたように、このような議論に積極的に参画し、皆様のお役に立つことができるよう働いて参る所存ですので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、茨城県医師連盟の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶と致します。





医薬品の安定供給 体制を強化へ

衆議院議員

石川 昭 政

茨城県医師連盟の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えることと存じます。昨年7月の参院選では、貴連盟が推薦する自見はなこ議員が見事再選されました。本年4月のこども家庭庁の発足に向けて、引き続き連携して取り組んで参ります。

さて、ドーハで開かれたサッカーワールドカップがアルゼンチンの優勝で幕を閉じました。森保ジャパンは惜しくも8強は逃したものの、死のEグループで優勝経験国ドイツとスペインを撃破。あのドーハの悲劇から30年、ドーハの歓喜を味わうことができました。試合中継ではマスクを着用している観客は皆無で、コロナ禍で閉ざされてきた海外との交流も盛んになってきました。わが国では、新型コロナウイルス感染症の第8波が拡大する中、4回目のワクチン接種が進められています。初の国産コロナ治療薬ゾコーバも緊急承認されました。政府は医療ひっ迫に留意しつつ、社会経済活動の正常化を図り、ウィズコロナ社会における医療提供のあり方について見直しを進める方針です。

ロシアのウクライナ侵略は長期化の様相を見せています。エネルギー市場の混乱による電気・ガス料金の値上げ、円安の影響による原材料価格の高騰に見舞われています。自民党経済産業部会長（当時）として、ガソリンや重油・灯油価格の激変緩和措置の導入に取り組みしました。当初1Lあたり5円だった補助額を35円超へと大幅拡充し、ガソリン価格の急上昇を抑制する事が出来ました。

一方、電気料金等の値上げに対し、医療機関から悲鳴が上がっています。日本医師連盟等からの緊急要望を受けて、前例のない電気料金の補助に踏み切りました。本年1月使用分から家庭用で1kWh当たり7円、企業向けは1kWh当たり3.5円を補助します。電気・ガス料金に対して一世帯あたり合計で約4万5000円を補助する計算です。その他、地方創生臨時交付金において、自治体から医療機関に補助することができる予算も確保して物価高騰対策を講じています。また、人材確保のための処遇改善も課題となっています。次期診療報酬改定において、適切に処遇改善を図り、医療分野に人材を定着させなければなりません。

コロナ禍では、海外に依存してきた医薬品サプライチェーンの脆弱性が明らかとなり、経済安全保障の観点から国内生産体制の増強を図ることとしました。平時は企業のニーズに応じたバイオ医薬品を、有事にはワクチンを製造できるデュアルユースのためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業を開始しました。創薬ベンチャーエコシステム支援を通じて、日本の創薬産業の育成にも取り組みます。

令和4年に生まれた子供の数が、80万人を切る可能性が高まりました。少子化の傾向がコロナ禍で一段と加速しました。こども家庭庁の発足を契機に、子育て支援策をより一層充実しなければなりません。

令和5年度から、出産育児一時金を42万円から50万円に増額することになりました。少子化のトレンドを上昇に転じるためには、現在子育て世帯に掛けられている所得制限を思い切って撤廃し、全ての子育て世帯に支援を届けるべきだと考えています。実現できるよう自民党内で議論を深めて参ります。

結びに、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、茨城県医師連盟の皆様のご健勝とご多幸を祈念致します。



現場の先生方のために、 全力！

医師／総務大臣政務官／衆議院議員

国 光 あやの

鈴木委員長はじめ茨城県医師連盟の先生方におかれましては、平素より多大なるご支援、ご指導をいただき、心より御礼を申し上げます。数少ない医師出身の衆議院議員として、地元茨城の茨城県医師会会員として、先生方のお声をお聞きし、現場の実情を日々学ばせていただいております。

約3年間にも及ぶコロナ禍の中、一貫して感染管理に留意されながら、地域医療・地域包括ケアのフロントラインで尽力なさる先生方に、改めて感謝を申し上げます。

さらに、昨年のウクライナ危機や円安などによるエネルギー・物価高騰により、医療現場にも大きなご負担がかかっております。国の経済対策の立案、またその中で確保した交付金が、茨城県・各市町村経由で速やかに現場に行き渡るよう、働きかけを行ってまいります。

コロナ対策につきましては、第一波の大混乱時から、先生方から現場の課題をおうかがいし、PCR・抗原検査の拡充、診療・検査医療機関への支援、病床の確保、薬・ワクチンの開発など努めてまいりました。さらに、県内各所から医師不足のお声を頂き、医師のご紹介、自らもワクチン接種や救急当直などお手伝いし、現場の課題を、岸田総理はじめ関係者に必要策を提言するなど取り組んでまいりました。

令和4年診療報酬改定では、沢山のお声を頂き、発熱患者の外来診療等の体制整備のための外来感染対策向上加算、連携強化加算、サーベイランス強化加算を新設し、感染症対策に取り組んでおられる医療機関をさらに評価するとともに、重

症患者の診療にあたる高度急性期の評価などを充実しました。

また、来年の令和6年診療報酬改定は、6年に一度の介護報酬との同時改定であり、毎回大規模な改定が行われますので、反映すべくご意見をぜひ頂ければと存じます。

コロナの出口戦略について、直近のエビデンスの面からも、コロナによる致死率は、専門家とともに分析したところ、茨城県ははじめ各県のデータでも、3年前の5%程から、予防、ワクチン、薬等の効果もあり、0.1%近くまで下がってまいりました。オミクロン株の感染力の強さは懸念されますが、医療逼迫、社会とのバランス、国際的な動向も踏まえ、感染症法上の位置付け、現場へのご支援、費用負担等の各対策のあり方について、議論を鋭意行っており、長いコロナ禍の先が見通せるよう、取り組んでまいります。

私ごと、この度2022年8月の内閣改造において総務大臣政務官を拝命しております。自治体の原資となる地方交付税交付金、マイナンバーカード、デジタル田園都市国家構想（ローカル5G、医療DX等）、消防、郵政等を担当しております。

山積する課題の中、引き続き、現場の皆様のため全力で頑張らせてまいりますので、どうぞご指導よろしくお願い申し上げます。





社会に不可欠な医師の 皆様が医療に専念できる 環境づくりを！

文部科学大臣／衆議院議員

永 岡 桂 子

新年あけましておめでとうございます。茨城県医師連盟の皆様におかれましては、日頃より新型コロナウイルス感染症対応と地域医療の充実に多大なるご尽力を頂いておりますこと、心より敬意と感謝を申し上げます。また、鈴木茨城県医師連盟委員長をはじめとする各先生方のお取り計らいにより、このような機会を頂いたことに深く感謝申し上げます。

昨年は、皆様のご支援の賜物により、文部科学大臣に就任させていただきました。心より御礼申し上げます。大臣としての重責を果たしつつ、引き続き、地元の一国会議員として、茨城の地域医療を守る皆様に貢献してまいり所存です。

さて、この原稿の執筆時点では、新型コロナの「第8波」や、季節性インフルエンザとの同時流行に向けて様々な対策を講じているところです。茨城県医師連盟の皆様が、県と連携して発熱外来の拡充などに取り組んでくださっていることに御礼申し上げます。また、新型コロナワクチン接種においても、引き続きご協力いただき、感謝申し上げます。先般成立した令和4年度第2次補正予算では、今後の感染拡大等に備えた抗原定性検査キットの確保や医療用物資の備蓄といった新型コロナ対策に係る予算が計上されております。

また、12月に閉会した臨時国会では、感染症法等を改正し、都道府県と医療機関等の間で、病床、発熱外来、自宅療養者等への医療の確保等に関する協定を締結する仕組みや、自宅療養者等への健康観察の医療機関等への委託、初動対応を行う医療機関に対して医療を確保するための経費を

支給する仕組み等を整備することとしています。今後、平時・有事の感染症対応を統括する内閣感染症危機管理統括庁（仮称）の設置や、新たな専門家組織（いわゆる日本版CDC）の創設、厚労省の組織見直しが予定されており、必要な法案が提出される見込みとなっています。

また、全世代型社会保障制度の構築に向けた「社会保障改革」や、医療への安心感を持ていただくためには医療へのアクセスを確保しながら進める必要のある「かかりつけ医機能に係る制度の整備」、マイナンバーカードを活用した「オンライン資格確認」の原則義務化など、医師連盟の皆様を取り巻く状況を踏まえ、皆様が安心して医療に専念できる環境づくりが重要であると考えています。引き続き、医師連盟の皆様のお力になるべく、取り組んでまいります。

最後になりましたが、茨城県医師連盟ならびに関係者の皆様方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。





地域医療を 支えていくために

参議院議員

上 月 良 祐

新年おめでとうございます。茨城県医師連盟の会員の皆様には健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの対策に献身的にご尽力いただいている医療関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

新型コロナは昨年秋以降、感染者数がまた増加に転じ、季節性インフルエンザの同時流行や、医療提供体制への負荷が再び増加することが懸念されます。コロナ専用病床の取扱いなど、現場の方々が医師、看護師不足等の中、これまで懸命に、そして徐々に積み上げてきた対策が一気に削られるようなことがないように求めてまいります。また、休床病床の取扱いなどについて、的確な情報提供と調整が必要であると考えています。感染症法の改正を受けた新たな体制づくりに当たっては、現場の切実な状況を十分に踏まえた対応が重要であり、私自身もしっかり現場の声をお聴きしてまいります。

新型コロナの影響の長期化に加え、現下のウクライナ情勢、急激な円安の進行などが複合的に重なり、光熱費や物価の高騰が続いています。国では、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」等を活用可能としていますが、対応は自治体の裁量に委ねられており、周知不足も否めません。そもそも医療の物価高騰の対策は全国一律の対応が必要であり、自由度の高い地方への交付金で対応するのは無理があります。公定価格のため転嫁できない分野への支援について、国による対応を引き続き強く求めてまいります。

医師不足や医師偏在の問題については、茨城県では、つくば、水戸区域は全国上位の医師多数区域である一方、土浦区域を除くその他の6区域は全国下位の医師少数区域です。医師偏在の状況は国の取組みにもかかわらず、状況は年々むしろ悪化しているのではないかとさえ感じています。臨時定員増だけでなく、診療報酬、臨床研修医制度の活用、専門医制度の位置付けなど、総合的な対策が必須だと考えています。

急速な少子高齢化が進む中、全世代型社会保障の構築は最も重要な課題の一つです。昨年10月から一定以上の所得の後期高齢者窓口負担2割が導入されましたが、現役世代の負担は依然大きく、国民皆保険を守るよう、予防への取組み、医科歯科連携の推進など、一層の取組みが必要と考えています。

これからも地域医療の実情をお伺いし、地域医療を支える皆さまの思いをより強く国政へと反映できますよう全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

鈴木邦彦委員長はじめ茨城県医師連盟及び会員の皆さまにとって、本年が一層の飛躍の年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





新春を迎えて

参議院議員

加藤 明 良

新年明けましておめでとうございます。茨城県医師連盟の皆様にはおかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

貴連盟の鈴木邦彦委員長はじめ茨城県医師会の皆様には、新型コロナウイルス感染症への最前線での対応等、茨城県の医療を献身的に支えて頂いておりますことに心より感謝申し上げます。

また旧年中は、第26回参議院議員通常選挙におきまして、貴連盟の皆様から多大なるご厚誼を賜りまして、初めての当選を果たすことができました。県政から国政へと立場が変わりまして大変身の引き締まる思いではありますが、県民の声を国政へ届けるべく、全力で職務に励んで参ります。

さて、新型コロナウイルス感染症について、政府としては、今後の感染拡大がオミクロン株と同程度の感染力・病原性の変異株によるものであれば、新たな行動制限は行わず、社会経済活動を維持しながら、高齢者等を守ることに重点を置いています。その上で、令和4年11月18日の政府の新型コロナウイルス感染症対策本部で、「今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される対応」を決定しました。

この中で具体的には、オミクロン株に対応し、外来医療等の状況に着目した新たなレベル分類に見直した上で、感染拡大が進行し、保健医療への負荷が高まった段階において、感染レベルを抑えるために取り得る感染拡大防止措置を講じることとしています。

一方で、年末年始の人流増加等による感染者数

の増減を見ていると、未だ新型コロナウイルスによる社会的影響は大きく、不安やストレスを感じている方も多くいらっしゃると思います。厚生労働省の調査でも、約半数の人が不安を感じていると報告されています。不安の内容として、自分や家族への感染の不安、仕事や収入への不安、人間関係の変化や孤立などが挙げられています。また、不安障害やうつ病などを発症する人や自殺者数が大幅に増加しているという報告もされています。

貴連盟の皆様には、そういった国民の不安の声に現場で寄り添って頂きながら、私も政府が進める医療制度改革等、皆様のお役に立てる基盤づくりのために今後とも精進して参る所存でございます。

本年は「癸卯」。「癸」は順序で言えば最後にあたり、一つの物事が収まり次の物事への移行をしていく段階と言われます。また「卯」のうさは繁殖する、増えるという段階にあたります。その両方を備えた「癸卯」は、去年までで様々なことの区切りがつき、次へと向かっていく、そこに成長や増殖といった明るい世界が広がっていくと解釈することができるということでもあります。本年が茨城県医師連盟並びに会員の皆様にとって、一層の飛躍の年でありますこと、また皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げますと共に、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年に寄せるご挨拶とさせていただきます。





年頭のご挨拶

厚生労働副大臣／参議院議員

羽生田 俊

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

茨城県医師連盟の先生方には、平素より私の政治活動に対し、ご理解とご支援を頂いておりますこと心より御礼申し上げます。皆様方のお支えにより、参議院議員として10年目の新年を迎えることができました。

昨年8月12日に厚生労働副大臣を拝命し、2024年4月からはじまる医師の働き方改革を含む労働そして福祉・年金が担当であります。医療現場で懸命に取り組んでおられます先生方の声を厚労行政へ反映させるべく粉骨砕身、与えられた職務を全うして参ります。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症との戦いが続き、昨年の国会では感染症法改正を議論してまいりましたが、感染対策を行った上で行動制限をとらず社会経済活動優先する方針で進んでおります。行動範囲が広がれば感染の増加や陽性率が増えると感じておられる先生も多いと思います。その中で投薬可能な薬の扱いや量の確保にも様々なご努力を頂いていることと感じています。そういった医療現場での努力が日本の感染者数を最小限度で食い止めていると存じますが、もう3年もの間終わりの見えないコロナとの長きに渡る戦いで疲弊をしていることも事実であります。

未だ自己の生活を犠牲にし、医療現場を最優先した生活を送られている医療者も多くおられると伺っております。この献身的な努力が報われる世の中でなければならないと思っています。感染症の治療だけでなく多くの一般患者さんの治療も大切であり、そのためには医師や医療従事者の環境整備・労働環境の改善が急務であり、何より医療従事者の健康確保が患者の医療安全にも繋がります。

す。医療者が安心して働ける環境づくりなど地域医療を守るための措置は絶対必要であります。

本年は診療報酬改定を含むトリプル改定（医療・介護・福祉）の議論が本格化して参ります。一方的な財政論に押されるのではなく、国民に寄り添った医療・介護福祉の提供が過不足なく行えることが必須であり、真に求められる提供体制の確立が必要です。財政論だけで語ることはできない、受ける側と提供する側の信頼関係と、人と人が支え合う、公助・共助・自助によって成立するべきものであります。

是非とも皆様の声をお聞かせ頂き、この国の医療介護現場の実状に合った政策を展開し、安心安全に暮らせる医療介護環境を担保すべく努力して参ります。そして日本が迎える高齢化社会が悲惨な未来ではなく、健康で人生を謳歌し長寿を全うできるような社会保障制度を構築し、国民がこの国に生まれて良かったと思える社会を目指して、引き続き1つ1つの課題に丁寧に取り組んで参ります。

最後にこのような執筆の機会を頂きました茨城県医師連盟の鈴木邦彦委員長を始め関係各位のご配慮に感謝申し上げます。

本年もご指導・ご鞭撻を賜りますよう、切にお願い申し上げます。





年頭のご挨拶

内閣府大臣政務官／参議院議員

自 見 英 子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。鈴木邦彦委員長をはじめ、茨城県医師連盟の先生方におかれましては、日頃より地域医療に貢献され、昨年末からの新型コロナウイルス第8波への対応など、国民の命と健康を守る最前線を担ってくださっていることに、心より御礼申し上げますとともに、旧年中は格別のご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。昨年7月の参議院議員選挙におきましては、前回の得票数を上回る213,369票という前回を上回るご負託を賜り、無事再選を果たすことが叶いました。茨城県医師連盟の先生方におかれましても、5月には自見はなこ総決起大会を開催していただき、選挙期間中に茨城県を訪れた際にも熱烈なご支援をいただき、大変勇気づけられました。

8月には、第二次岸田改造内閣において内閣府大臣政務官を拝命しました。拉致問題、こども政策、共生社会、女性活躍、孤独・孤立対策、少子化対策、男女共同参画、沖縄及び北方対策、地方創生、規制改革、クールジャパン戦略、アイヌ施策、デジタル田園都市国家構想、行政改革担当と幅広い分野を担当させていただくことができるのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と、感謝の念に堪えません。

そのほか、4月にHPVワクチンの積極的勧奨再開が実現しました。9価ワクチン定期接種化に加え、男性への接種推奨へ向け精進してまいります。6月には「こども家庭庁設置法」と「こども基本法」が成立するなど、これまでの取り組みに大きな進展がありました。「こども家庭庁」は、今年4月の発足に向けて担当政務官として準備を進めております。行政の縦割りを解消し、こども達を真ん中に置いた

社会を作り、全世代型社会保障の実現に向けしっかりと魂を込めてまいります。

物価高騰対策も急務です。約三年間続く新型コロナウイルス感染症との戦いで、ワクチン接種や発熱外来、自宅療養者の健康観察など医療現場を担う先生方に献身的なご尽力を頂いておりますが、そこに追い打ちをかけるように昨秋から物価高騰の波が押し寄せ、医療・介護・福祉にも大きな影響が出ています。地方創生臨時交付金の活用などの対策を行ってまいりましたが、まだまだ足りているとは思えません。先生方をお支えすべく、今年も全力で頑張ります。

今年4月からは、オンライン資格確認の導入が保険医療機関・保険薬局に対し原則として義務づけられることとなりますが、現場のお声をよく聞き、日本医師会と二人三脚で混乱が起きないように努めて参ります。

さらに今年には、団塊の世代が75歳を迎える2025年まで2年を切りました。今後ますます高齢者が増え、医療や介護のニーズが高まる一方で、2024年からは医師の労働時間の上限規制が始まります。医師の過重労働を防ぎつつ地域医療提供体制を守るという難しいタスクですが、しっかりと取り組んで参ります。

そのほか、かかりつけ医機能が発揮される制度設備など、社会保障を取り巻く課題は山積しておりますが、安心の医療・介護・福祉を次世代に伝えるため、全力で頑張ります。茨城県医師連盟の先生方におかれましては、本年も変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。結びに、新年が先生方にとって幸多き一年となることを祈念申し上げて、年頭のご挨拶といたします。



時局評論



「戦略」と「戦術」

茨城県医師連盟副委員長

松崎 信夫

2022年も残すところ1ヶ月を切った。国会では感染症法の改正が両院で可決され、コロナ禍で浮き彫りになったこれまでの医療提供体制に楔を打ち込む形になった。また、某宗教団体の被害者問題を端に発した「法人等による寄付の不当な勧誘防止等に関する法律案」が、与野党の合意の下、会期末の12月10日の参院本会議に緊急上程・可決成立となった。

一方、「防衛費増額のため、2027年度以降に年1兆円余の財源を確保していくとし、与党に財源の検討を命じた」という12月9日の報道には、些か驚かされた。ロシアのウクライナへの軍事侵攻情勢や繰り返される北朝鮮のミサイル発射・中国の動向を見聞きすれば、世界でも類を見ない「戦争放棄」を謳った憲法をもつ我国ではあるが、憲法の範囲内でいかに国を守るかを考えざるを得ない。今や、「平和憲法があるからどの国も日本に攻撃をしてこないだろう」と考え、防衛費増額に理解を示さない国民は少ないのではないか。しかし多くの国民が物価高騰で苦しんでいる中、あまりにも大胆・唐突な発表であり、異論を持っている国民も多いはずである。

国民が安心して生活できるよう、国の安全を確保することは国の重要な使命であり、政治家・国家行政の大事な仕事である。短期・中期・長期と戦略をたて、それを実行できるよう法律をつくり、予算を確保し実行実現していく。こうした立て付けで、国の計画の下、国民の健康を守るために我々も医療を提供できるのである。しかしここで問題になるのは、「戦略」である。

高度成長を成し遂げてきた1960～1970年代前半と異なり、我国の経済成長は微々たる状況であり、また当時とは全く違う人口構成である少子高齢社会と

なった。当然高度成長期と現在の戦略は全く違ったものになることは否めない。これからの人口減少時代を迎えていく次世代・次々世代に国債という大きな借金を残すわけにはいかないという意見も道理ではある。しかし増税という形だけで解決できるのであるか？増税のターゲットは法人税になる・あるいは復興税を財源に、という情報も出ているが、賃金への影響や被災地への支援への影響が懸念されよう。

医療では、国の行程通りにデジタル化が進められようとしている。いわゆる医療DXだ。私自身は大いに歓迎するが、昨今のオンライン診療の適用拡大・オンライン資格確認普及拡大の状況を振り返ると、国の進め方はあまりにも急ピッチに感じる。11月以降、厚生労働省での各種会議・委員会等や日医等の関係団体で活発化している「かかりつけ医機能」の議論も同様である。またジェネリックメーカーの不祥事をきっかけに次々と続く薬剤供給不足も、後発品使用促進という戦略（おそらく最終目的は医療費減少）に対し様々な戦術を使ってきたものの供給不足という有事を考慮しなかった結果であり、困るのは国民である。

2022年にカタールで開催されたサッカーワールドカップでは、事前の予想を大きく覆し、日本は強豪国ドイツ・スペインを破りグループリーグを首位で突破、多くの感動を与えてくれた。ここまでに至るまで、おそらく日本サッカー界では短期的・長期的戦略を立てて進んできたことであろう。そうした戦略の下、代表チームを任された監督は各試合・様々な大会で選手たちをどう使っていくかの戦術を考えていたのではないだろうか。

最近、尾形裕也九大名誉教授の医療制度改革に関する講演会を拝聴する機会があった。そこで、マイケル・ポーターの経営戦略論である「ポジショニング論」や「戦略の失敗は戦術では補えない」という話を、医療制度に準えて伺った。結果が出るまで、戦略が正しかったかはわからないかもしれない。しかし、国は常に国民のために最善の戦略を実現できるよう熟考した上で、戦術（法整備・政策立案等）を用いるべきである。

自民党茨城県医療会支部 入 党 の お 願 い

茨城県医師連盟 会員各位

診療報酬は、予算編成時に内閣が決定しており、内閣の母体である政権与党を支持・支援していなければ、改定率に関し、内閣に対する意見具申はおろか、交渉の土俵にも乗ることができません。また、医療界の意向が反映された、あるべき医療政策等の実現も限りなく困難となってまいります。

自民党茨城県医療会支部は、令和元年に再設立をし、現在、211名（令和4年11月8日時点）でございますが、さらなる組織強化を図るために党員を募集しております。

会員各位におかれましては、趣旨をご理解の上、是非ご入党ください。

〈対 象〉 茨城県医師連盟会員

〈党費負担〉 先生方の負担はございません（医師連盟会費より負担）。

〈申込方法〉 以下に必要事項をご記入の上、FAXにてご返信願います。

入党申込書については、事務局にて代筆いたします。

〈そ の 他〉 年に数回程度、自民党機関紙が郵送されて参ります。

■返 信 先 茨城県医師連盟事務局

■FAX番号 029-243-5071 ※送付状は不要です

茨城県医師連盟委員長 鈴木 邦彦 殿

私は、自民党医療会支部への入党を希望いたします。

令和 年 月 日

医療機関名

氏 名

■自民党機関紙などの郵送について○を付けてください。

・郵 送 先（医療機関・自宅・その他）

その他住所（ ）

■問合せ先 茨城県医師連盟事務局 荻野・益子 電話029-241-8446

令和4年1月～令和4年12月 茨城県医師連盟主催会議等報告

令和4年

1月31日 茨城県医師連盟だより第38号発行

3月4日 臨時委員会 (Web)

- ・第26回参議院議員通常選挙「茨城県選挙区」への対応について

4月15日 日本医師連盟長島公之参与と茨城県医師連盟正副委員長の意見交換会

4月22日 第1回自見はなこ先生を支援する多職種の会 (Web)

- ・参議院議員選挙対策について

同日 第26回参議院議員通常選挙・比例代表第1回選挙対策会議 (Web)

- (1) 茨城県医師連盟の取り組みについて
- (2) 日本医師連盟の取り組みについて

5月27日 第26回参議院議員通常選挙・比例代表第2回選挙対策会議 (Web)

- (1) 茨城県医師連盟の取り組みについて
- (2) 日本医師連盟の取り組みについて

同日 第26回参議院議員通常選挙・比例代表自見はなこ総決起大会

参加者288名

6月21日 第2回自見はなこ先生を支援する多職種の会 (Web)

- ・参議院議員選挙対策について

同日 第26回参議院議員通常選挙・比例代表第3回選挙対策会議 (Web)

- ・茨城県医師連盟の取り組みについて

7月6日 第3回自見はなこ先生を支援する多職種の会 (Web)

- ・参議院議員選挙対策について

同日 第26回参議院議員通常選挙・比例代表第4回選挙対策会議 (Web)

- (1) 茨城県医師連盟の取り組みについて
- (2) 日本医師連盟の取り組みについて

7月10日 第26回参議院議員通常選挙

茨城県医師連盟推薦候補者 結果一覧

選挙区	推薦候補者	結果
茨城県	加藤 明 良	当選
比例代表	自見 はなこ	当選

7月29日 第4回自見はなこ先生を支援する多職種の会 (Web)

- ・第26回参議院議員通常選挙について

同日 定例委員会 (Web)

報 告

令和3年度茨城県医師連盟事業報告について

議 事

第1号議案 令和3年度茨城県医師連盟収入支出決算について

第2号議案 令和4年度茨城県医師連盟事業計画(案)について

第3号議案 令和4年度茨城県医師連盟収入支出予算(案)について

第4号議案 会計責任者及び会計責任者職務代行者並びに監事(案)について

そ の 他

- ・第26回参議院議員通常選挙について

9月12日 自由民主党茨城県支部連合会幹部との懇談会

- (1) 医療機関・介護事業所等における物価高騰への支援の拡充に関する要望について
- (2) 発熱外来設置医療機関における休日診療に対する財政措置について

10月21日 臨時委員会 (Web)

- ・茨城県議会議員一般選挙への対応 (案) について

そ の 他

- ・自民党員（自民党茨城県医療会支部）の獲得について

11月25日 自由民主党茨城県選出国会議員との意見交換会

- (1) 新型コロナウイルス感染症第8波への対応について
- (2) 医療機関・介護事業所等に対する物価高騰への支援について
- (3) 地域における面としてのかかりつけ医機能～かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて～（第1報）について
- (4) 茨城地域包括ケア学会／日本地域包括ケア学会の開催について

12月2日 自由民主党茨城県医療会支部総会
報 告

- (1) 第26回参議院議員通常選挙結果について
- (2) 令和4年党員獲得状況について

議 題

- (1) 役員の選出について
- (2) 令和3年収支決算報告及び令和5年収支予算（案）について
- (3) 茨城県議会議員一般選挙への対応について

12月11日 茨城県議会議員一般選挙

茨城県医師連盟推薦候補者 結果一覧

選挙区	定数	推薦候補者	結果
水戸市・城里町	6	川 津 隆	当選
		舘 静 馬	当選
日立市	4	瀬 谷 幸 伸	当選
土浦市	3	伊 沢 勝 徳	当選
		高 橋 直 子	当選
古河市	3	森 田 悦 男	当選
		高 橋 勝 則	当選
石岡市	2	戸井田 和 之	当選
		大和田 寛 樹	落選
結城市	1	白 井 平八郎	落選
龍ヶ崎市・利根町	2	坂 本 隆 司	当選
下妻市	1	飯 塚 秋 男	当選

選挙区	定数	推薦候補者	結果
常総市・八千代町	2	飯 田 智 男	当選
		金 子 晃 久	当選
常陸太田市・大子町	2	石 井 邦 一	当選
		西 野 一	当選
高萩市・北茨城市	2	豊 田 茂	当選
笠間市	2	常 井 洋 治	当選
		村 上 典 男	当選
取手市	2	中 村 修	当選
		川 口 政 弥	当選
牛久市	2	山 岡 恒 夫	落選
		沼 田 和 利	当選
つくば市	5	鈴 木 将	当選
		星 田 弘 司	当選
		塚 本 一 也	落選
ひたちなか市	3	海 野 透	当選
		磯 崎 達 也	当選
鹿嶋市	1	小松崎 敏 紀	当選
潮来市・行方市	1	鈴 木 義 浩	落選
守谷市	1	小 川 一 成	当選
常陸大宮市	1	大 瀧 愛一郎	落選
那珂市	1	小 泉 周 司	当選
筑西市	2	水 柿 一 俊	当選
坂東市・五霞町・境町	2	半 村 登	当選
		石 塚 隼 人	当選
稲敷市・河内町	1	細 谷 典 幸	当選
かすみがうら市	1	外 塚 潔	落選
桜川市	1	白 田 信 夫	当選
神栖市	2	西 條 昌 良	落選
		村 田 康 成	当選
鉾田市・茨城町・大洗町	2	長谷川 重 幸	当選
		田 山 東 湖	当選
つくばみらい市	1	山野井 浩	落選
小美玉市	1	幡 谷 好 文	落選
東海村	1	下 路 健次郎	当選
美浦村・阿見町	1	葉 梨 衛	当選

そ の 他

茨城県医師連盟だより発行の他、ホームページの更新やメールマガジンの配信、FAXニュースの発信により広報の充実に努めた。

令和3年度茨城県医師連盟収入支出決算書

(収入の部)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	説 明
1. 会費	49,934,000	49,647,000	△ 287,000	
1. 県医連会費	49,932,000	49,647,000	△ 285,000	38,000×連盟会員数
2. 臨時会費	1,000	0	△ 1,000	
3. 過年度収入	1,000	0	△ 1,000	
2. 交付金	8,058,000	13,758,000	5,700,000	
1. 交付金	8,058,000	13,758,000	5,700,000	
3. 雑収入	150,000	143,688	△ 6,312	
1. 雑収入	150,000	143,688	△ 6,312	日医連旅費助成 預金利息
4. 繰越金	64,316,529	64,316,529	0	
1. 繰越金	64,316,529	64,316,529	0	
収 入 合 計	122,458,529	127,865,217	5,406,688	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	説 明
1. 会議費	9,000,000	1,336,095	△ 7,663,905	
1. 委員会費	4,000,000	1,318,095	△ 2,681,905	定例委員会、臨時委員会
2. 常任委員会費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
3. 支部長会議費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
4. 全国会議費	1,000,000	18,000	△ 982,000	
2. 事業費	55,000,000	23,267,508	△ 31,732,492	
1. 選挙対策費	15,000,000	15,000,000	0	
2. 医師連活動費	40,000,000	8,267,508	△ 31,732,492	
3. 事務費	350,000	737,511	387,511	
1. 旅費	100,000	0	△ 100,000	
2. 通信費	100,000	206,400	106,400	
3. 雑費	150,000	531,111	381,111	会員情報システム改修費用
4. 交付金	13,570,000	13,570,000	0	
1. 支部交付金	13,570,000	13,570,000	0	
5. 負担金	38,250,000	38,250,000	0	
1. 事務負担金	11,390,000	11,390,000	0	
2. 日医負担金	26,860,000	26,860,000	0	
6. 予備費	6,288,529	0	△ 6,288,529	
1. 予備費	6,288,529	0	△ 6,288,529	
支 出 合 計	122,458,529	77,161,114	△ 45,297,415	

収入合計 127,865,217 円

支出合計 77,161,114 円

差引残高 50,704,103 円

令和4年度へ繰越

令和4年度茨城県医師連盟収入支出予算書

(収入の部)

単位：円

科 目	本 年 度	前 年 度	増 減	説 明
1. 会費	49,060,000	49,934,000	△ 874,000	
1. 県医連会費	49,058,000	49,932,000	△ 874,000	5月：19,000×1,293名、 11月：19,000×1,289名
2. 臨時会費	1,000	1,000	0	
3. 過年度収入	1,000	1,000	0	
2. 交付金	8,046,000	8,058,000	△ 12,000	
1. 交付金	8,046,000	8,058,000	△ 12,000	
3. 雑収入	150,000	150,000	0	
1. 雑収入	150,000	150,000	0	日医連旅費助成 預金利息
4. 繰越金	50,704,103	64,316,529	△ 13,612,426	
1. 繰越金	50,704,103	64,316,529	△ 13,612,426	
収 入 合 計	107,960,103	122,458,529	△ 14,498,426	

(支出の部)

科 目	本 年 度	前 年 度	増 減	説 明
1. 会議費	9,000,000	9,000,000	0	
1. 委員会費	4,000,000	4,000,000	0	
2. 常任委員会費	2,000,000	2,000,000	0	
3. 支部長会議	2,000,000	2,000,000	0	
4. 全国会議費	1,000,000	1,000,000	0	
2. 事業費	35,000,000	55,000,000	△ 20,000,000	
1. 選挙対策費	15,000,000	15,000,000	0	
2. 医師連活動費	20,000,000	40,000,000	△ 20,000,000	
3. 事務費	350,000	350,000	0	
1. 旅費	100,000	100,000	0	
2. 通信費	100,000	100,000	0	
3. 雑費	150,000	150,000	0	
4. 交付金	13,300,000	13,570,000	△ 270,000	
1. 支部交付金	13,300,000	13,570,000	△ 270,000	
5. 負担金	44,939,000	38,250,000	6,689,000	
1. 事務負担金	18,119,000	11,390,000	6,729,000	
2. 日医負担金	26,820,000	26,860,000	△ 40,000	
6. 予備費	5,371,103	6,288,529	△ 917,426	
1. 予備費	5,371,103	6,288,529	△ 917,426	
支 出 合 計	107,960,103	122,458,529	△ 14,498,426	

茨城県医師連盟役員名簿

役 職 名	氏 名
委 員 長	鈴 木 邦 彦
副 委 員 長	松 崎 信 夫 / 大 場 正 二
常 任 委 員	間 瀬 憲多朗 / 江 原 孝 郎 / 延 島 茂 人 / 伊 藤 金 一 / 城之内 宏 至 / 安 部 秀 三 / 佐々木 栄 一 / 細 田 弥太郎(1区) / 榎 戸 久(1区) / 松 倉 則 夫(2区) / 眞 壁 文 敏(3区) / 小 林 肇(4区) / 星 野 寿 男(5区) / 飯 岡 幸 夫(6区) / 秋 葉 和 敬(7区)
委 員	淀 縄 聡 / 長 田 佳 世 / 新 澤 岳 / 齋 藤 洋 子 / 船 橋 宏 幸 / 丹 野 英
会 計 責 任 者	伊 藤 金 一
会計責任者職務代行者	新 澤 岳
監 事	梅 里 義 博 / 川 島 房 宣

委員	支 部	支 部 長	規約第10条に基づく
	水 戸	(※1 細 田 弥太郎)	小 関 廣 明 / 安 達 忠 治 / 新 井 雅 之
	日 立 市	(※1 星 野 寿 男)	中 廣 一 善 / 佐 藤 貴 也
	土 浦	小 原 芳 道	塚 原 靖 二 / 三輪谷 博 史
	古 河	(※1 秋 葉 和 敬)	加 藤 奨 一 / 前 澤 宏 忠
	龍ヶ崎市	菊 地 達 之	野 上 哲 夫
	牛久市	小 池 右	足 立 秀 喜
	石 岡	柏 木 史 彦	小 林 雅 人
	結 城	池 羽 一 紀	大 木 準
	常陸太田	(※1 小 林 肇)	荷 見 源 成
	取 手	(※1 眞 壁 文 敏)	海老原 聡 / 貝 塚 広 史
	ひたちなか市	黒 澤 崇	小 林 学 / 中 村 丹 雄
	つくば	(※1 飯 岡 幸 夫)	成 島 淨 / 廣 瀬 廣 / 小 倉 正 徳
	県 央	會 澤 治	山 崎 貴 彦
	笠 間	石 橋 正二郎	立 川 裕一郎
	那 珂	小野瀬 好 良	河 野 史 尊
	水 郡	櫻 山 拓 雄	吉 成 尚
	多 賀	横 倉 稔 明	石 井 完 治
	鹿 島	(※1 松 倉 則 夫)	坪 正 紀 / 高 橋 優
	水 郷	飯 島 福 生	根 本 公 夫
	稲 敷	宮 本 二 郎	秋 本 優
	真 壁	(※1 榎 戸 久)	中 嶋 正 明 / 宮 田 秀 夫 / 阿部田 聡
	きぬ	中 川 邦 夫	許 斐 康 司
	猿 島	芝 田 佳 三	村 田 靖

(注) ※1は常任委員。

編集後記

あけましておめでとうございます。

鈴木邦彦委員長はCOVID-19が猛威を振るい昨年末から既に第8波が始まっており、この冬には季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されるので、県内824の診療・検査医療機関に加えて99の医療機関も新型コロナ陰性の場合に対応することになり、COVID-19に対して県内医療機関の体制強化と共に会員に対して協力を求めています。昨年7月10日参議院議員通常選挙において日本医師連盟の組織内候補である自見はなこ先生が、全国で213,369票と自民党の社会保障関係候補の中で1位と素晴らしい成績での当選を報告し会員に対し感謝を述べました。

大井川知事は「COVID-19に対して医師会員をはじめとする多くの医療従事者が昼夜を問わない懸命なご尽力に対し深く感謝申し上げます」と述べ、特に感染者の増加に伴い、罹患後症状（いわゆる後遺症）に悩む方が増加する可能性に備え、「本県では早期に罹患後症状外来実施医療機関を設置・充実させる」としています。

梶山弘志先生は自見はなこ先生と加藤明良先生の当選を祝福され、コロナの「第8波派」とインフルエンザ同時流行に対して万全を期すようにとの激励の言葉を頂きました。更に、円安による物価上昇や資源高騰が電力料金の値上がりによる医療崩壊の危機を憂慮されておられます。先生は世の中や政界の表裏をよく知る素晴らしい政治家です。中国の神話伝説「嫦娥奔月」の故事を引き合いにしてその決意を示されたのだと思います。感謝！！

田所嘉徳先生は感染症対応の総合調整を行う、内閣感染症危機管理統括庁（仮称）を創設するための法整備を行うと述べておられます。

額賀福志郎先生は医療に関する中長期的な課題の解決のカギは、さまざまな医療的ニーズに的確に対応できる「かかりつけ医」機能の強化であるとしておられます。

葉梨康弘先生は「地域の皆様のお役に立つことができるように、新たに出兵して、全身全霊で国政に取り組んで参る所存です」としておられますので、今後の活躍を見守りたいと思います。

自見はなこ先生は内閣府大臣政務官に就任され幅広い分野を担当することになっております。特に「こども家庭庁」や「こども基本法」が成立し担当政務官としてお忙しいと思います。しかし、我々としては自見先生を医系議員の中核として、診療報酬・介護報酬・障害福祉等サービス報酬改定に対して特に力を入れて頂きたいと考えております。

上月良祐先生は光熱費や物価高騰への対応時には特にご尽力を頂きました。先生は国では「電力ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」等を活用可能としていますが、対応は自治体に裁量に委ねられており、周知不足も否めませんと述べました。そもそも医療の物価高騰の対策は全国一律の対応が必要であり、自由度の高い地方への交付金で対応するのは無理がある、という意見には賛成します。

加藤明良先生は先の総選挙で初当選され今後頑張りたいと抱負を述べておられます。頑張れ！

松崎信夫副委員長は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻や繰り返される北朝鮮のミサイル発射・中国の尖閣諸島への領海侵犯をみて、岸田総理は防衛費増額を打ち出しましたが、多くの国民が物価高騰に苦しんでいる中、あまりにも大胆・唐突な発表であり、異論を持っている国民も多いはずだと述べました。2027年度以降不足する年約1兆円をカバーする財源の内訳としては、たばこ税2千億円、復興特別所得税の仕組みを転用して所得税2千億円、法人税7～8千億円、合わせて1.1～1.2兆円です。法人税を上げれば当然賃金に跳ね返り、復興税を財源にすれば被災地への支援に影響はないのだろうか？という不安を述べております。

昨年7月安倍元総理が宗教団体に母親がのめり込み1億を超える多額の財産を寄付したため貧困となった被害者家族により射殺されるという大事件が起こりました。その後12月10日旧統一教会被害者救済法案が可決成立しましたが、この法案が本当に被害者救済に結びつくのか、被害者がどのようにして救済されるのかを検証する必要があります。

COVID-19が猛威を振るっていますが、この感染症による施設における職員や患者・入所者にクラスターの発生があり、医療施設・老健施設や老人福祉施設で1回のクラスターにより520万円～550万円の赤字が出ました。それに加え電気・ガス代等の上昇によりこれまでよりも400～500万円/月電気代がアップしました。昨年の「老人福祉・介護事業」の倒産は9月までに100件に達し、介護保険法が施行された2000年以降で過去最多を記録し、負債総額は191億9100万円（336.9%増）で前年同期の4倍超に達しました。要因は複合的でありCOVID-19の感染拡大で職員が感染し病棟閉鎖が継続したり、光熱費、燃料費、食材費等のコストの高騰などが考えられます。しかし、このコストの暴騰は医療機関や介護施設にとりそれぞれの施設の存亡に係る大問題であります。

（副委員長・大場 正二）

医師連盟だより第39号

令和5年1月31日発行

発行人 茨城県医師連盟委員長 鈴木 邦彦

編集人 茨城県医師連盟

発行所 茨城県医師連盟

〒310-0852 水戸市笠原町489
TEL 029 (241) 8446 FAX 029 (243) 5071

印刷所 (株) 高野高速印刷

〒310-0035 水戸市東原2-8-1
TEL 029 (231) 0989 FAX 029 (221) 4176